

昨年度より始めた電動ろくろをつかった作品作りの企画。開催日は、1月20日(土)。昨年と同じ日程並びに、タイムスケジュールで1日目は午前の部と午後の部の計2回において実施しました。この電動ろくろを使った陶芸作品作りは、別企画で行っている手ひねり成形の手回しろくろが電動にかわるだけで、成形と仕上げの工程は全くかわりません。したがって、開催日も手ひねり陶芸と同じく1日目と2日目の2日間で、1工程という日程になっています。昨年に引き続き参加いただけただけの方だけではなく、新規の方も見受けられ広がりを感じます。

第1日目は、成形する日です。

手ひねり陶芸でも同じですが粘土は焼くと収縮するので想像している大きさより約2cm程大きく作ります。これも、手ひねり陶芸と同じで参加者の方々は思い思いの器の大きさをイメージしてから器作りに入っておられました。

まず、最初に行うのが「土殺し」という整形前に行う重要な作業になります。これは、粘土の質を均一にして粘土を電動ろくろの中心に整える下準備です。ろくろの上においた粘土の塊を両手で挟んで上に伸ばしてその後下に縮めます。これを何回か繰り返します。言葉で言うのは簡単ですが、足でペダルを踏んで強めたり、弱めたりしながらの作業でなかなか電動ろくろの操作もままならず、粘土を均一にするために視線が粘土にとび、ろくろがうまく回らず・・・と苦勞しましたが、レバーを固定することでろくろの動きに集中し、時間がたつにつれだんだん慣れてうまく作業が進みなんとか第1段階がクリアとなりました。その後、ろくろを回し、まわっている向きに指を使って粘土を挟み上に向かって伸ばします。少しでも力が余分に入ると形がいびつになりやり直し。力の加減が難しそうですが、皆さん指を上手に使い丁寧に作業をされていました。しかし、結構苦勞はしました。続いて形を整えるためにコテ、棒コテ、針などを使って粘土を切りながら高さをそろえました。高さがそろえば、なめし革で切り口を整え、泥水のたまりを除いて「しっぴき」という糸で台座から切り取り1日目の成形の工程が終了しました。第1日目は、はじめて陶芸に参加された方もおられましたがとてもそうとは思えないほど手慣れた手つきで粘土を練り上げ形を作っておられ、その様子を感じて眺めていました。電動ろくろの扱いも次第に手慣れた様子でテキパキと作業をこなされ、また一つひとつの工程も丁寧にそして美しくこなされていたのがとても印象的でした。午前の部も午後の部も和気あいあいと進行し、陶芸作品を作ることを楽しんでおられました。

2日目は、2月17日(土)に開催いたします。また、その様子をレポートしたいと思います。

午前の部の様子



午後の部の様子





本日の作品群

